

「新しく生まれ変わる日」

～ 神と人の前で！！過去との決別！！～

マルコ 1:3~11

■ 真理を語る共同体

特殊相対性理論などを提唱した物理学者アインシュタインは、ナチスドイツの価値観のもと教会を嫌っていました。しかし後に、こう言いました。「私は、教会をあざ笑い過小評価していました。けれども、私の祖国が深い暗闇の中にいる時、私が期待していた大学の言論さえも沈黙している中、真理を語る唯一の共同体があったのです！それが教会でした！こうして私は輝く教会に対して、新しい愛情を持つようになったのです！」人は実を見て見分けます。いちじくの実の例え話のように、カラダンジョンも、涙とともに愛の種を蒔き続け、周りの人に「輝いている団体」と感動されるようになってきました。愛し合うキリストの香りを放っている共同体だと伝わっているのです。

■ ヨハネから受けたバプテスマ

今日は洗礼式です。バプテスマ(洗礼)とは、原語では「浸す」という意味です。バプテスマのヨハネは、イザヤ書の「主の道を用意し、主の通られる道をまっすぐに」とするとおりに、人々に罪の赦しのための悔い改めのバプテスマを宣べ伝え、ヨルダン川で水によるバプテスマを授けていました。「私よりもさらに力のある方があとから来られ、聖霊のバプテスマをお授けになる」と言っていたところ、イエスが現れました。イエスはわざわざガリラヤのナザレから来られ、ヨルダン川でヨハネから水のバプテスマをお受けになりました。それは一つ一つ意味のあることでした。

■ バプテスマ

ゴラン高原のガリラヤ湖から死海へヨルダン川が下っており、ヨルダン川には「下る」「汚れ」という意味があります。ナアマン將軍は、部下の愛の忠告を受け入れ、高慢な汚れている自分の価値観に死に、へり下り、ヨルダン川に身を浸し、皮膚病が癒される奇跡が起きました。だからイエスキリスト自身も、ヨルダン川に来て、へり下り、自分の価値観に死ぬ必要がありました。洗礼は、神と人の前で、自分の過去と決別する象徴の式でもあります。「バプテスマのヨハネ(原語でハーナーン)」は、「恵む、あわれむ」という意味です。エサウとヤコブの兄弟の、兄エサウが感情に任せて大事な長子の権利を弟ヤコブに渡してしまい、長年の不仲の後、涙の「和解」をした時に使われた言葉と同じです。ヨハネは「神と人との和解」をする役割がありました。もしあなたが、自分が失敗を招いたと思っている過去を憎んでいるなら、「あなたとあなた自身の和解」が必要です。隣人のせいで失敗したと思っている過去を憎んでいるなら、「あなたと隣人の和解」が必要です。その和解の行為がバプテスマです。バプテスマは原語では「浸す」という意味です。ヤコブの息子ヨセフが、兄たちから疎まれ殺されそうになるところを商人に売られ、兄たちはヤギの血にヨセフの服を浸して父に死んだと言いました。兄たちの憎しみによりヨセフの代わりの犠牲となったヤギの血に服を浸す時にも、バプテスマの言葉が使われています。洗礼とは、自分への憎しみや多くの人への憎しみがある過去を、十字架上で犠牲となったイエスキリストの血に浸し、自分自身に死に、過去と決別し新しく生まれ変わるというものです。あなたの代わりにイエスキリストが犠牲となったのです。

■ ナザレからヨルダン川へ

ガリラヤ(ゲリラー)は、「占領すべき地(荒野40年の後ヨシュアに言われた占領すべき残された地)、未開の地」という意味です。あなたに約束されているのにまだ与えられていない領域、という意味でもあります。イエスはわざわざガリラヤから来て、これから十字架の犠牲を負うという役割の領域が与えられるということを表しています。ナザレ(ネーツェル)は、「若枝、新しい地、エッサイの根株、散らされたものを集める」という意味です。エッサイの根株は、ダビデの父エッサイの名にちなんで、ダビデ王家系という意味で、旧約聖書の預言通りイエスはダビデ王家から生まれたことを表しています。ヨルダン(ヤーラド=へり下る)川で、バプテスマを受け、水の中から上がられました。水の中から上がるは、「自分に死に(ターバル)、(アーラー)地から湧き上がる(創世記)豊かな水」と同じ言葉です。

■ わたしはあなたを喜ぶ

喜ぶ(ラーツァー)は、「神と和解」という意味です。エサウとヤコブが涙の和解を果たした時に、エサウが喜んで笑顔になった時と同じ言葉です。

■ 新しく生まれ変わる

イエスは、大工の息子として育ち働き、29歳のときバプテスマを受け公生涯を送られました。バプテスマは、過去の生き方を終わらせるということです。痛み、傷、恥を、自分を赦せない過去を終わらせて、神と人の前で、新しく生まれ変わる決断をすることでもあります。自分の罪を知った人は、イエスキリストに身を委ねて、罪を十字架の血に浸し、新しく生まれ変わることを選んでいきます。そのように、あなたの内側が変わることにより奇跡

が起こります。人を憎んでいた生き方が変わることは大変な奇跡です。『誰でもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。』Ⅱコリ 5:17

■ 聖霊の風

イエスは律法学者ニコデモの質問に答えて言われました。「人は水と御霊によって生まれ変わらなければ、天の御国に入ることはできません。」洗礼の決断をすると、聖霊が鳩のようにあなたに下ってきます。聖霊の風があなたの中に吹き始め、人生が変わってきます。風は見えないので分かりにくいかもしれませんが、なんだかうれしいと思えるようなものが心の中に吹き始めます。今まで風が吹いていなかった淀んだ憎しみの古い人生が変えられ始めます。聖霊の風は思いのままに好むところに吹きます。あなたの心の中が好まれるところであるように、イエスの十字架の血に罪を浸し日々生まれ変わります。イエスキリストは、信じる私たちが一人も滅びることなく永遠のいのちをもつために、十字架に架られました。世を裁くためではなく世を救うために来られました。イエスキリストを信じる者は裁かれません。青銅のへびを仰ぎ見れば生きる、と主がモーセに言われ、かまれた者が仰ぎ見ると生きたように、イエスキリストを信じる者は生きるのです。真理を行う者は光の方に来ます。しかし私たちは、光より闇を愛してしまいがちです。悪いことをする者は光を選べません。光が選べないから苦しく、先が見えない闇が不安です。風を吹かせて、闇を取り去るところに出てきなさいと神様は言っておられます。

■ 新しい領域

この後イエスはユダヤ地方に滞在し、人々にバプテスマを授けられました。ヨハネのバプテスマも描写しながらニコデモに語った真意のバプテスマを、ユダヤ地方に行って授けられました。ナアマン將軍の癒し、ナザレという未開の地域での救い、ユダヤ人に対するバプテスマ、エサウとヤコブの和解。それらのことを通して神様は、あなたの赦せない人生の和解が新しい領域の中でなされるのだ、モーセのカナンの地に入る前に荒野で40年苦しんでたようなあなたに新しい領地があるのだと言っています。それが始まる入り口が洗礼です。

■ 見失わない

ペートルーベンは大兄弟の家庭に生まれ難聴でした。幼くして母を亡くし、酒乱の父に暴力を受け毎日8時間ピアノを弾かされて育ちました。20歳の時に難聴が悪化し、作曲家のいのもちである音を失いました。父も亡くなり、友にも恋人にも裏切られ天涯孤独でした。しかし、モーツァルトや人との出会いを通して神を知っていき、このように言っています。「全能の主よ、あなたは私の胸の奥にある私のたましいを覗かれ私の心を見抜いておられます。私の心の内に人類への愛と善を施したいという要求が満たされているのを、主よあなたはご存じです。私には友がいない。一人ぼっちで生きていかなくてはならない。だがわかっている。創造主は誰よりも私の近くにおられる。恐れずに私は神に近づく。どんなときでもこの方が私と共におられることがわかる。そして私は主がどのような方かということも知っている。」人生の最後に、第九 喜びの歌を作りました。ペートルーベンは、全てを失っても創造主なる神の恵みを感じ、心にはいつも風が吹いていました。多くの物を持っていて行き先を見失う方を選ぶか、全てを失っても行き先を見失わない方を選ぶか。アインシュタインは初めは前者の方で、ペートルーベンは後者でした。見失って淀むと、してはいけないことをしてしまいます。パリサイ人は自分を見失い、殺してはいけないという律法を破り、イエスを十字架に掛けて殺しました。

■ 最後に

あなたはあなたを喜びますか？それとも羨み、またあなたを虐げた人を憎み、憎しみの連鎖を行いますか？

身を委ねて十字架の血に浸れば、喜びを見出し出すことができます。泉のように湧き上がった歓喜を人々に流していくことができます。ペートルーベンも、喜ばしく凱旋門に向かう勇士の姿を曲に描きました。イエスキリストは「私の恵みを受けて、神の家族と共に、涙とともに種を蒔き喜びを流していきなさい。」とされています。

『そして天から声がした。「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ。」』マルコ 1:11

(要約者:高橋 奈津江)

(2022年 8月14日)